

利根中央病院

第10号
2006年7月

病院

だより

企画発行 利根中央病院地域連携室
〒378-0053 群馬県沼田市東原新町1855-1
電話 0278-22-4321 FAX 0278-22-4393
URL <http://www.tonehoken.or.jp/>
E-Mail master@tonehoken.or.jp

理念と方針

- 理念** 安心と安全、参加と協同
患者中心のチーム医療
- 方針** ☆救急体制の充実、いつも安全確認
絶やさぬ笑顔
☆診療情報提供と共に作る診療計画
☆広げよう人と人との結びつき
すすめよう健康づくりまちづくり

話題

「脳梗塞超急性期におけるアルテプラゼ療法」

脳神経外科医長 河内英行

「第2回群馬PDNセミナー開催報告」

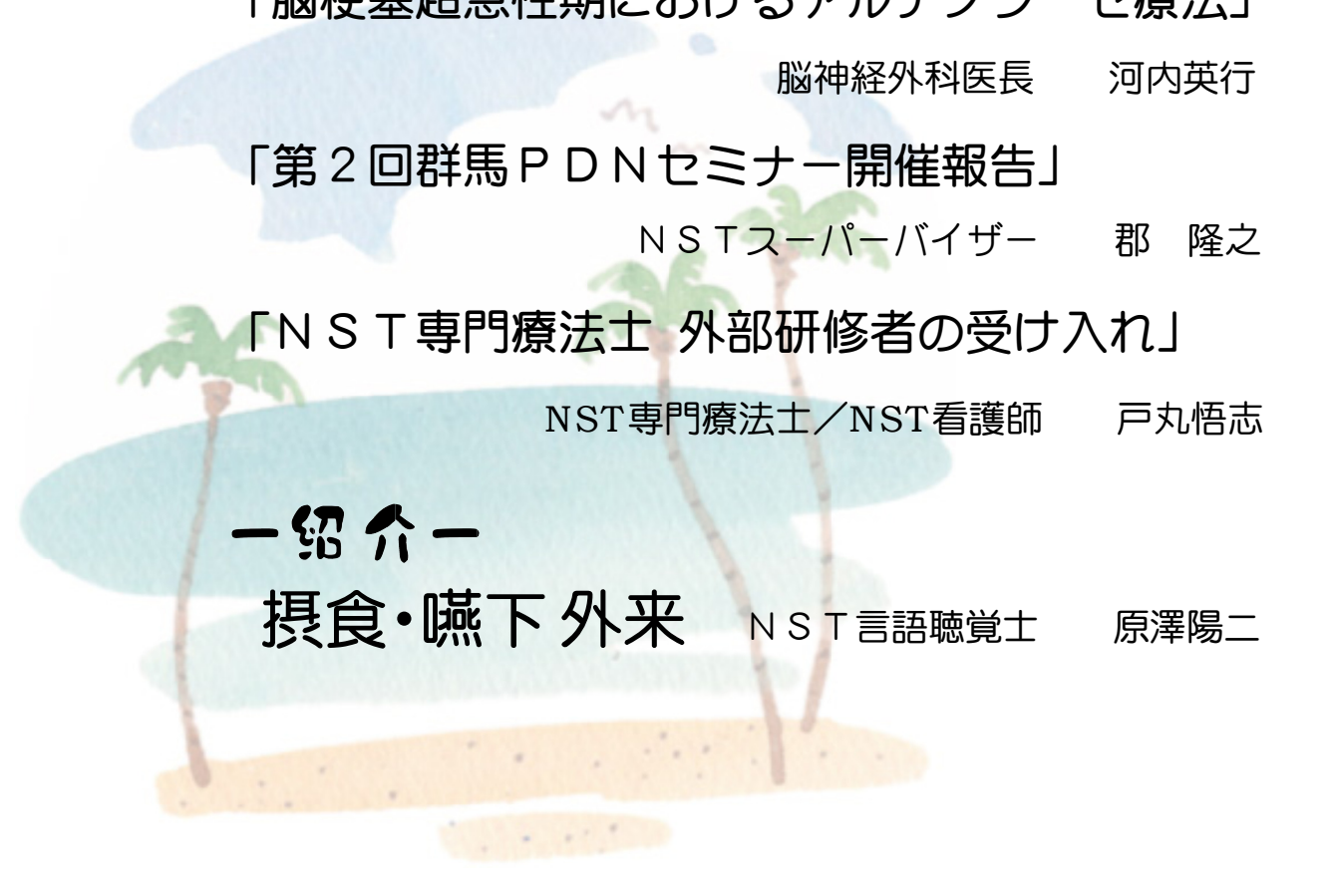
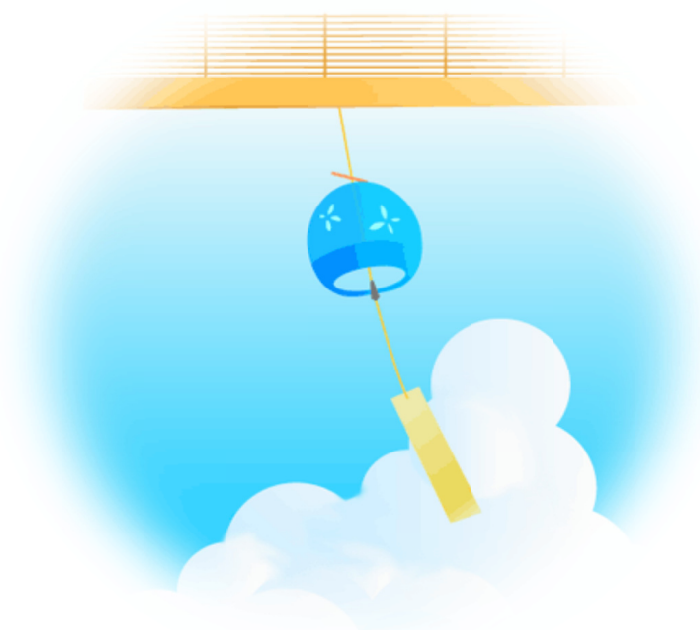
NSTスーパーバイザー 郡 隆之

「NST専門療法士 外部研修者の受け入れ」

NST専門療法士/NST看護師 戸丸悟志

—紹介—

摂食・嚥下外来 NST言語聴覚士 原澤陽二



脳梗塞超急性期における アルテプラゼ療法

脳神経外科医長 河内英行



昨年10月、厚生労働省よりアルテプラゼ（t-PA）の脳梗塞超急性期治療への適応が認可されました。脳卒中ガイドライン2004においても、推奨グレードがAであり“行うよう強く勧められる”治療法です。しかし、出血性合併症の危険性も高く、使用にあたっては以下の施設基準を設けております。

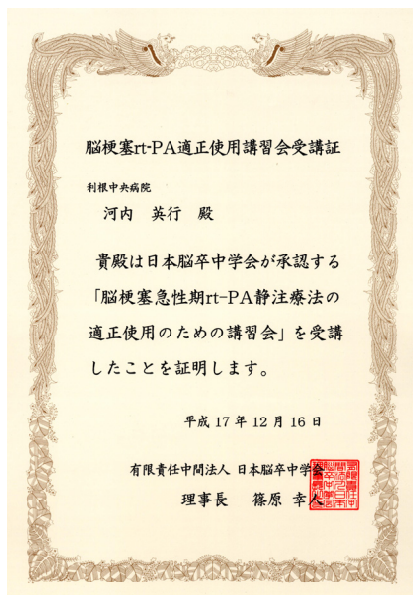
- ① CTあるいはMRIが24時間可能である。
- ② 急性期脳卒中に対する十分な知識と経験を持つ医師(日本脳神経外科学会専門医など)を中心とするストロークチーム及び設備（SCUあるいはそれに準ずる病棟）を有する。
- ③ 脳外科的処置が迅速に行える。
- ④ 実施担当者が日本脳卒中学会の承認する本薬使用のための講習会を受講し、その証明を取得する。ただし、発症24時間以内の急性期脳梗塞を数多く（たとえば年間50例程度）診療している施設の実施担当者については、本薬使用前の講習会の受講を必須とはしないが、できるだけ早期に受講することが望ましい。

当院では施設基準に適合し、アルテプラゼが採用されております。治療に当たっては、

- ① 発症時刻（最終未発症確認時刻）が判明していること。
- ② 治療開始（予定）時刻が発症時刻から3時間以内であること。
- ③ 症状の急速な改善がないこと。
- ⑤ 軽症（失調、感覚障害、構音障害、軽度の麻痺のみを呈する）ではないこと。

の全てを満たしている必要があるため、早急に搬入される必要があります。

しかし、高齢な方、すでに抗血小板剤・抗凝固剤の内服を行っている方などでは、合併症のリスクが治療のメリットを越えてしまう場合があり、当院では患者様毎に検討し、脳梗塞治療を行っています。



紹介

摂食・嚥下 外来

NST言語聴覚士 原澤陽二



5月から新たに摂食嚥下外来を開設しました。非常勤の山川治先生を迎え、週一回土曜日の午前中に診療を行っています。対象は摂食嚥下障害を呈した患者様です。

摂食嚥下障害とは、さまざまな原因によりお茶や味噌汁など水分を飲む際にゴホゴホとむせこんだり、ご飯が食べにくかったりする状態です。

特に脳血管疾患を以前に発症された方は

摂食嚥下障害を起こしやすく、「食べている間に口の端から食物がこぼれる」、「飲み込んでも口の中に食べ物が残りやすい」、「飲み込みが遅い」などの症状が見られることがあります。また、肺炎を繰り返している人も摂食嚥下障害を起こしている可能性が高いと言われています。食べ物が誤って肺に入ってしまう状態を誤嚥と言い、高齢者の肺炎の多くはこの誤嚥による誤嚥性肺炎であると言われております。その他、薬の副作用や加齢に伴い唾液が少なくなり口腔内が乾燥しやすくなる方がいます。乾燥した状態では飲み込みにくく、また味を感じる機能も低下する恐れがあります。

このように、さまざまな原因で起こる摂食嚥下障害に対して、機能向上訓練の教示や食事形態、必要カロリー量、必要水分量などを評価することでその方に適した食事内容の検討を行っています。また、口腔乾燥の顕著な方には、唾液の分泌を促す漢方薬の処方や乾燥を緩和させる用品の提供などを行うことで少しでも経口で満足いく食事ができるよう働きかけています。

